

株主のみなさまへ

第28期報告書

2025年4月1日～2026年3月31日

株式会社トランスジェニックグループ

証券コード 2342



一人ひとりの健康と豊かな暮らしの実現をめざして



株主の皆様へ

ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。また、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、第28期の事業報告書をお届けするにあたりご挨拶申し上げます。当社は、「未来に資するとともに、世界の人々の健康と豊かな暮らしの実現に貢献する」ことを目指しております。

この経営理念のもと、当社グループでは探索基礎・創薬研究から、非臨床、臨床および診断・解析に至るまでを包括した創薬支援サービス事業を展開するとともに、グループの収益基盤強化を目的として、事業承継・再生事業分野を対象とした投資・コンサルティング事業にも注力しております。

一方で、近年のライフサイエンス研究市場は、コロナ禍以降も低迷が続いており、特に国内の基礎研究分野における公的研究費の減少等を背景に、当社グループの祖業である遺伝子改変マウス事業（ジェノミクス事業）を取り巻く環境は大きな転換期を迎えております。また、大動物薬理事業においても実験動物価格の高騰が続き、顧客の研究開発活動に影響を及ぼしております。

こうした環境変化を踏まえ、当社は組織再編や拠点配置の見直しによる固定費削減を進めるとともに、グループ内における事業統合を推進しております。具体的には、連結子会社および孫会社間の吸収合併を実施し、経営資源の集約と効率化を図ることで、技術力やノウハウの統合による事業基盤の強化に取り組んでおります。

さらに、創薬支援事業の構造改革の一環として、中核施設であった神戸研究所の閉鎖を含めた、研究拠点の再編を進めております。大動物薬理事業は磐田研究所に統合し、ジェノミクス事業については、技術基盤および事業継続性の観点から、神戸ポートアイランド内のレンタルラボへの再配置を行う方針といたしました。これにより、研究機能の維持と運営効率の両立を図ってまいります。

また、当社は本年、株式会社東京証券取引所の承認を受け、当社株式の市場区分をグロース市場からスタンダード市場へ変更いたしました。これまで当社はM&Aの活用等により事業規模の拡大とグループ体制の強化を進めてまいりましたが、今後は企業価値の向上に一層重点を置いた経営を推進してまいります。

今後も、当社グループは創薬支援事業の収益性向上と事業基盤の強化に取り組むとともに、投資・コンサルティング事業においても安定的な事業運営を進め、経営資源の最適配分を通じて企業価値の向上を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、当社の取り組みにご理解をいただき、なお、一層のご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

2026年6月
代表取締役社長 福永健司

当連結会計年度におけるわが国経済は、企業収益や雇用情勢は緩やかな持ち直しの動きが見られました。しかしながら、恒常的な物価上昇が家計の消費マインドの低下を招き、戦争による中東情勢の悪化により景気の先行きが一層不透明となりました。

創薬支援事業につきましては、株式会社トランスジェニックにおいて、従来の長期がん原性試験と比較して短期間で発がん性の評価が可能となる「rasH2マウスを用いた短期発がん性試験」や、2024年から受託開始した「中期皮膚発がん性試験」に加え「ラットを用いた中期大腸発がん性試験」の受託を開始するなど、高付加価値な新規サービスの拡充に努めました。また、受託試験の納期管理や事業運営の見直しによるコストの削減にも注力いたしました。この結果、前期比で大幅な増収になるとともに、損失は大幅に縮小いたしました。

今後の持続的な成長及び収益性の強化へ向けた活動といたしましては、動物試験と細胞試験のデータを組み合わせた統合的な安全性・薬効評価サービスを構築し、開発初期段階から臨床試験計画策定に直結するエビデンスを提供できる体制を整えることを目的として、2025年7月に株式会社エーセルと業務提携を行いました。また、核酸医薬品開発における合成から臨床試験までを一貫して支援できる体制の構築等を目的として、2025年10月に北海道システム・サイエンス株式会社と業務提携を行いました。さらに、収益性・資本効率の改善を目的として、神戸研究所の事業を2026年12月頃までに他の拠点へ移転または集約し神戸研究所を閉鎖することを2026年3月に決定いたしました。

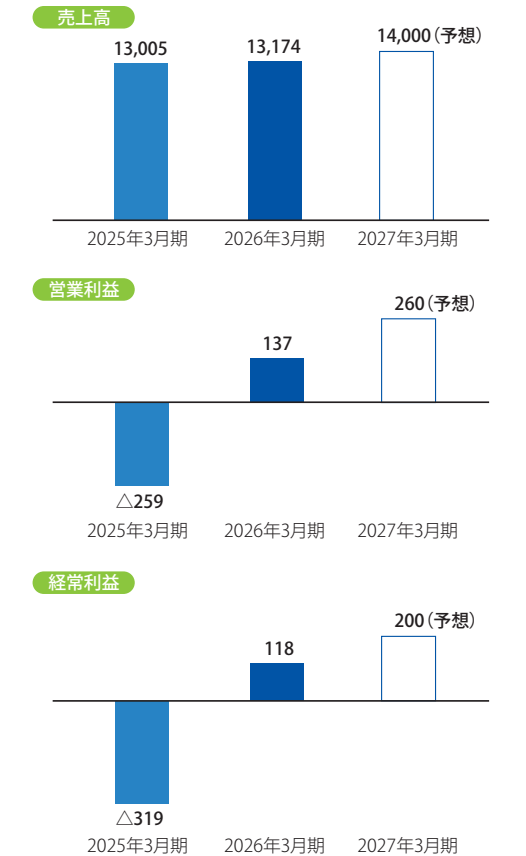
投資・コンサルティング事業につきましては、Eコマースによる小売販売は消費マインドの持続的な低下で苦戦し、卸売販売等の商社事業も売上高は伸び悩みましたが、価格転嫁やコスト削減に注力いたしました。このため、前期比で減収となりましたが、営業利益につきましては増益となりました。

これらの結果、当連結会計年度における当社グループの売上高は、13,174百万円（前期比1.3%増）となり、営業利益につきましても137百万円の利益（前期は259百万円の営業損失）となりました。経常利益につきましても、為替差益などの営業外収益56百万円及び支払利息などの営業外費用76百万円を計上した結果、118百万円の利益（前期は319百万円の経常損失）となりました。

また、親会社株主に帰属する当期純損失につきましては、投資有価証券売却益などの特別利益174百万円、子会社の拠点集約に伴う事業再編損や子会社の試験データ不正に関する損失補償金、特別調査費用等などの特別損失500百万円、法人税、住民税及び事業税56百万円、過年度法人税等10百万円、法人税等調整額△177百万円及び非支配株主に帰属する当期純損失20百万円を計上した結果、77百万円の損失（前期は1,089百万円の親会社株主に帰属する当期純損失）となりました。

◆第28期連結累計期間の業績

単位:百万円



第28期定時株主総会終了のお知らせ

当第28期定時株主総会におきまして、右記のとおり報告いたしましたので、ご通知申し上げます。

●報告事項

- 第28期(2025年4月1日から2026年3月31日まで) 事業報告、連結計算書類の内容並びに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件 本件は、上記事業報告、連結計算書類の内容及びその監査結果を報告いたしました。
- 第28期(2025年4月1日から2026年3月31日まで) 計算書類の内容報告の件 本件は、上記計算書類の内容を報告いたしました。

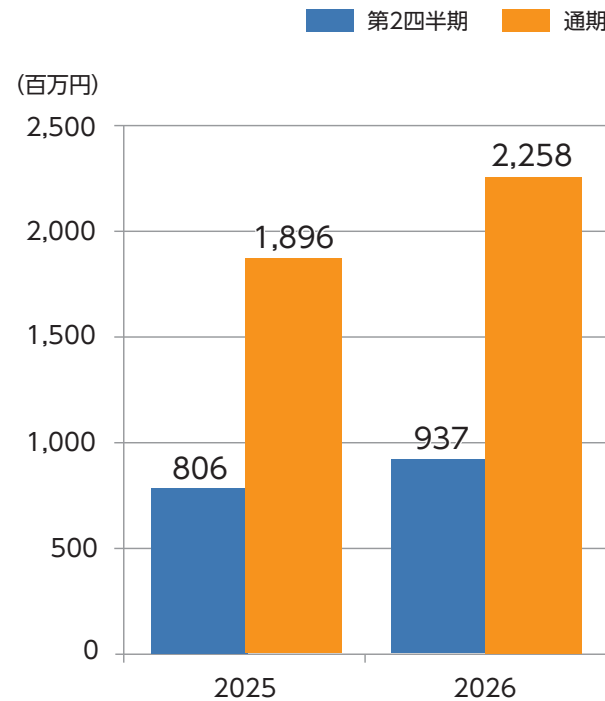
(注) 決議事項はございませんでした。

創薬支援事業

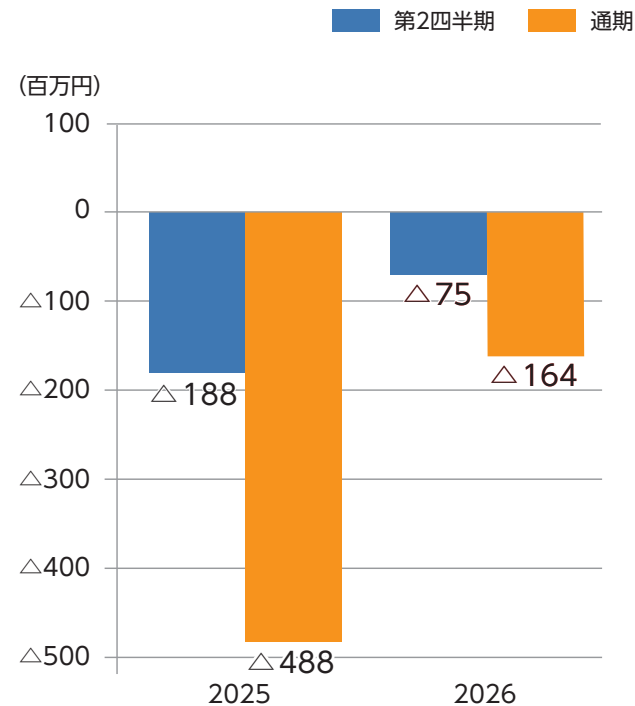
●概要

前期からの繰越受注試験を予定通り完了させるとともに新規受注にも注力し、コスト面でも事業運営の合理化による削減を実施いたしました。この結果、売上高は前期比19.1%増となり、前期比で大幅な増収となりました。また、営業利益につきましても前期比で損失が大幅に縮小いたしました。

売上高



営業利益

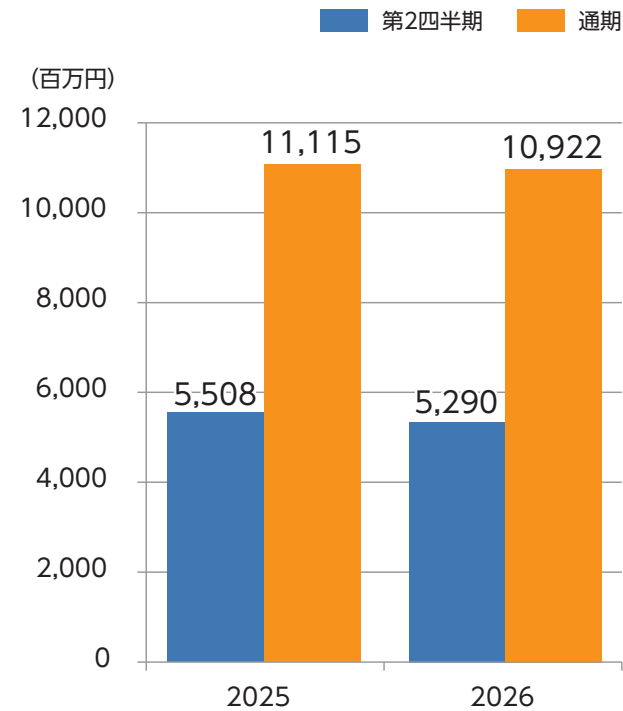


投資・コンサルティング事業

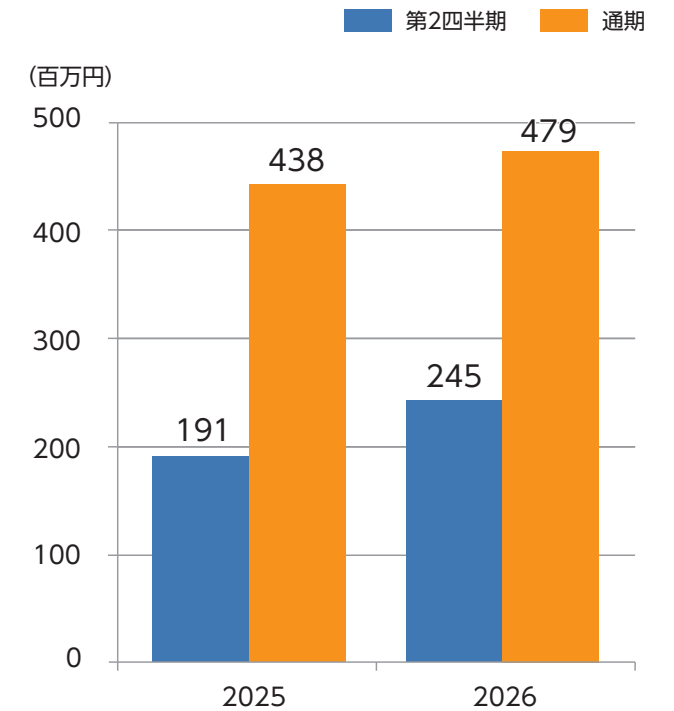
●概要

消費マインドの低下により、Eコマース・商社事業ともに苦戦しましたが、Eコマースにおける価格転嫁や在庫管理の適正化、固定費のコスト削減に加え、商社事業での価格交渉による粗利率改善など、利益の確保に注力いたしました。この結果、売上高は前期比で減収となりましたが、営業利益につきましては前期比で増益となりました。

売上高



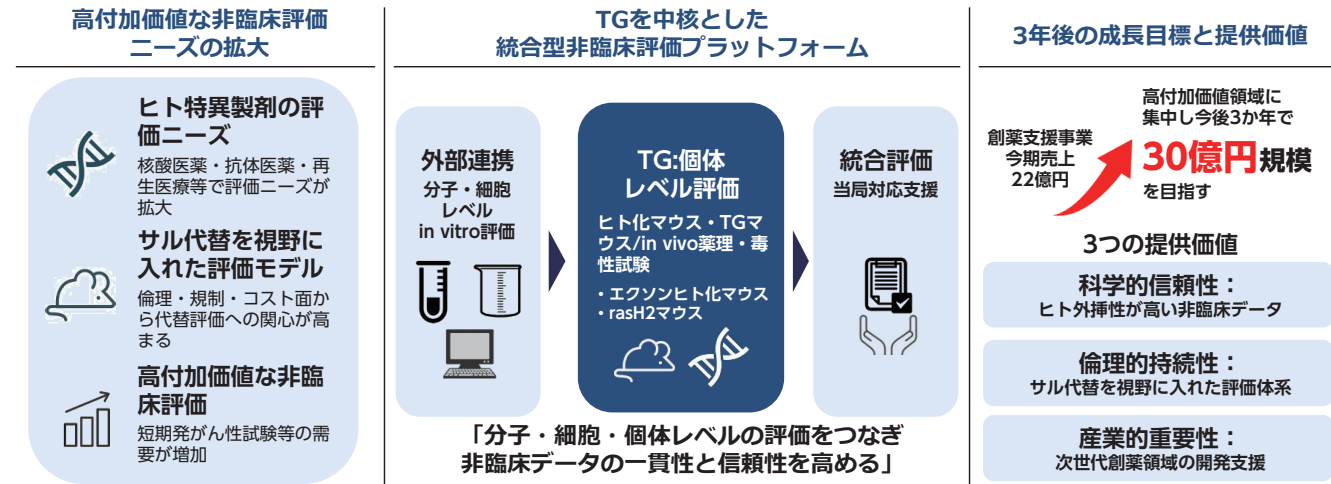
営業利益



創薬支援事業トピックス

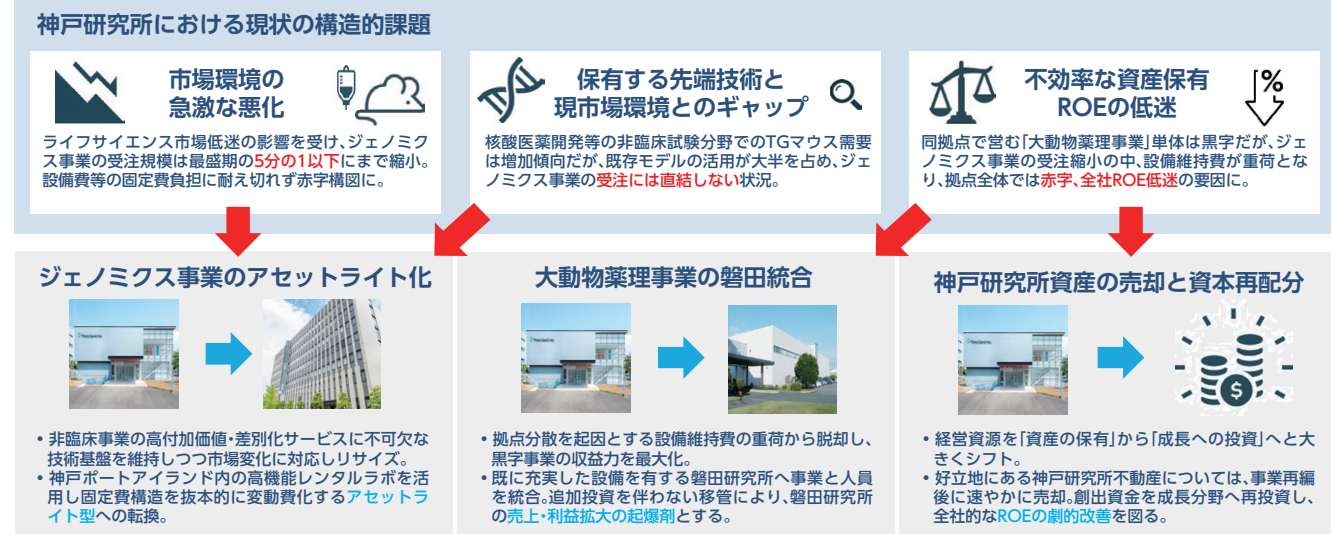
中期戦略と成長シナリオ

トランスジェニック(以下、「TGJ」)の強みである遺伝子改変・ヒト化マウス技術を活かし、核酸医薬・抗体医薬・再生医療等に対応する高付加価値な非臨床評価領域を強化いたします。今期売上22億円から、3年後に30億円規模を目指します。



神戸研究所事業の戦略的再配置

アセットライト化 x 既存資産の最大活用 x 成長分野への資本再配分を三本柱とした構造改革を実行します。



2027年3月期業績予想

創薬支援事業においては、構造改革効果により大幅な損益改善を図ります。また、投資・コンサルティング事業においては、既投資先の堅調な推移を予想しており、今後も積極的な投資を継続いたします。

単位:百万円	2027年3月期 (通期業績予想)	2026年3月期 (実績)	増減	
			百万円	(%)
売上高	14,000	13,174	825	6.3
創薬支援事業	2,250	2,258	△8	△0.4
投資・コンサルティング事業	11,750	10,922	827	7.6
本社・連結調整	0	△6	6	-
営業費用	13,740	13,036	703	5.4
創薬支援事業	2,250	2,423	△173	△7.1
投資・コンサルティング事業	11,270	10,442	827	7.9
本社・連結調整	220	170	49	28.9
営業利益	260	137	122	88.5
創薬支援事業	0	△164	164	-
投資・コンサルティング事業	480	479	0	0.1
本社・連結調整	△220	△177	△42	-
経常利益	200	118	82	69.5
当期純利益	150	△77	227	-

次期の配当につきましては、構造改革費用等への対応と財務基盤の安定化を優先し、現時点では未定とさせていただきます。神戸研究所の売却による財務基盤の回復、収益性の改善状況を見極めた上で、早期の復配を目指します。

スタンダード市場への移行

2026年2月19日、東証グロース市場から東証スタンダード市場へと移行いたしました。必要な体制整備と実績を踏まえ、安定した上場市場区分のもとで中長期的な企業価値の継続的向上を推進します。



会社概要 2026年3月31日現在

会社名 株式会社トランスジェニックグループ
設立 1998年4月
資本金 50百万円
従業員数 6名(単体) 227名(連結)
事業所
本社 福岡県福岡市中央区天神二丁目3番36号
東京オフィス 東京都千代田区有楽町一丁目7番1号

役員

代表取締役社長	福永 健司	社外取締役	清藤 勉
取締役	北島 俊一	社外取締役	齋藤 穂高
取締役	船橋 泰	常勤監査役	友永 良二
取締役	渡部 一夫	監査役	佐藤 貴夫
取締役	高島 浩二	監査役	本坊 正文
取締役	富田 昭仁		

株式の状況 2026年3月31日現在

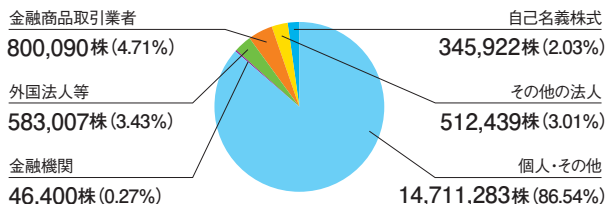
発行可能株式総数 43,630,100株
発行済株式の総数 16,999,141株
株主数 12,644名

大株主の状況

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
小林 哲朗	309,900	1.86
内田 善久	237,700	1.42
モルガン・スタンレー・MUFG証券株式会社	232,600	1.39
BNYM SA / NV FOR BNYM FOR BNY GCM CLIENT ACCOUNTS M LSCB RD	202,158	1.21
福永 健司	191,500	1.14
藤井 正樹	173,000	1.03
久保田 正明	170,000	1.02
野村証券株式会社	162,993	0.97
株式会社ムトウ	160,200	0.96
原田 育生	150,000	0.90

(注) 1. 自己株式を345,922株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

所有者別株主分布状況



株主メモ

証券コード 2342
上場市場 東京証券取引所 スタンダード市場
上場年月日 2002年12月10日
事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月
基準日 定時株主総会・期末配当 毎年3月31日
中間配当 毎年9月30日

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関
同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒183-0044 東京都府中市日鋼町1-1
TEL: 0120-232-711 (通話料無料)

郵送先
〒137-8081 新東京郵便局私書箱29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
公告方法 電子公告(当社ホームページに掲載)
※事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

IRのお知らせ

最新トピックスやホームページの更新情報等を電子メールでお知らせしています。ご登録は当社ホームページにて受け付けています。

<https://transgenic-group.co.jp>

当社のIR活動についてご意見・ご感想をお聞かせください。
下記アドレスへのご連絡をお待ちしております。

ir@transgenic-group.co.jp

